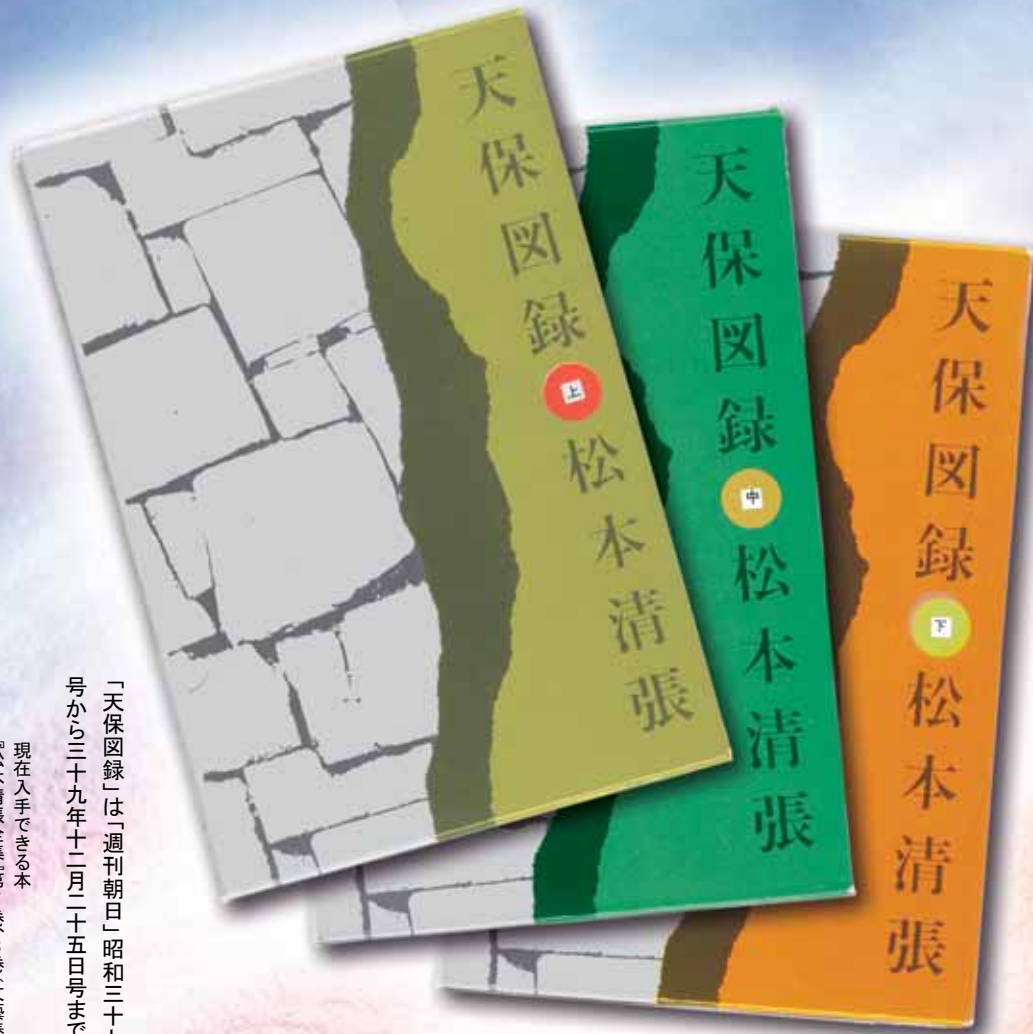


# 松本清張記念館

◆館報◆  
2006. 8  
第22号



妖怪か。よろしい。  
これからほんとうの妖怪になるかな

「天保凶録」は「週刊朝日」昭和三十七年四月六日号から三十九年十二月二十五日号まで連載された。

現在入手できる本  
『松本清張全集』第27巻、28巻（文藝春秋）  
『天保凶録』(上)(中)(下)朝日文芸文庫（朝日新聞社）

『天保凶録』初単行本 朝日新聞社  
(上) 昭和39年6月 (中) 昭和40年6月 (下) 昭和40年7月

## 目次

- 松本清張研究会第十四回研究発表会…………… 2
- 松本清張研究会の軌跡…………… 3
- 展示品紹介…………… 4
- 清張原風景「点描」…………… 4
- 企画展紹介「天保凶録」挿画展…………… 5
- 探検！清張記念館…………… 5
- 友の会活動報告…………… 6
- 中学生・高校生読書感想文コンクール…………… 7
- みんなの広場…………… 7
- トピックス…………… 8

## 作品紹介

「天保凶録」は、天保十二（一八四一）年、老中水野越前守忠邦が十二代将軍家慶の命として、側用人水野美濃守忠篤に処分を伝えるところから始まる。これまで十一代将軍・大御所として家斉の治下にあった五十年間の浪費政策の影響で、徳川幕府内には賄賂が横行し、社会・文化は奢侈を極めていた。開幕から約二五〇年が経過。貨幣経済の発達と共に町人ブルジョワジーが誕生し、武士階級は困窮し、幕府の権威も失われつつあった。忠邦はさきの寛政・享保の両改革を手本に、改革に手を着ける。「天保改革」のはじまりである。

改革の片腕としたのが鳥居甲斐守忠輝（耀蔵）で、忠邦は南町奉行に抜擢する。鳥居は密偵や密告を奨励し、過酷な監察で江戸市中を取り締まる。江戸市民は彼の名をもじって「妖怪」と恐れた。ほかに天文方で蘭学者の渋川六蔵や、金座の後藤三右衛門を相談相手に、忠邦は奢侈禁止令や貨幣の改鑄、問屋仲間の解散を命じ、印旛沼の開墾工事に手を付ける。忠邦は幕府そのものの衰退に気づかぬまま、旧来通りの老中の権威を信じ、幕府を再建しようとした。

諸外国からの脅威に備えるため上知令を発令するが、御三家のひとつ紀州家が賛成しない。儉約令で反感を買った大奥からも反忠邦の声が挙がりはじめる。改革のほころびは少しずつ広がり、鳥居耀蔵はいち早くこれに動付く……。

明治維新の二十数年前、幕藩体制のひずみが顕在化した時代を、清張は多彩な登場人物を操り縦横無尽に描き出す。家斉期を舞台に水野忠篤、中野清茂（碩翁）らの栄落を描いた「かげろう絵図」に続く大作である。

（学芸員 小野 芳美）

# 松本清張研究会 第十四回研究発表会

(日時) 平成十八年六月二十四日(土) 午後二時  
(会場) 明治大学リバティタワー1103教室

会員及び一般参加などを合わせて八十名が参加。  
研究発表では質疑応答も活発にくり広げられ、長時間の発表会にもかかわらず熱心に聴講していました。

## 講演 『松本清張の歴史・時代小説——小説日本芸譚と天保図録を中心に』

講師 中島 誠 氏

文芸評論家。

昭和5(1930)年、東京生まれ。

昭和30(1955)年、

早稲田大学英文科卒業。

著書に『時代小説の時代』

『司馬遼太郎と丸山真男』

『宮部みゆきが読まれる理由』

『藤沢周平論』

『松本清張の時代小説』など多数がある。

2006年には、当館発行の

『松本清張研究』第七号で

寺田博氏を相手に

「短編の緊密さ、長編の構想力」と題し、

対談をした。



中島誠氏は、『小説日本芸譚』のうち「岩佐又兵衛」をもっとも面白い作品として細かく分析され、氏にとりて時代小説とは、歴史に密着した人物や歴史の流れについての不思議さを痛切に感じながら書き上げられた小説であると論じられた。

また、『天保図録』を読んでも与えられた教訓は、政治は力がなければ出来ない、その政治の力とは何かといえ、途中で止めること、やり直すことができるのが、本当の力なのだということである。そのことを学ばせてもらったと述べられた。そして、政治が力であるというのはその通りかも知れないが、その力の政治を成功させて、最後まで行うためには、や

はり動機の大切さ、プロセスの大切さ、結果責任の大切さをいつも踏まえなければならぬと論じられた。

そして、松本清張という作家がこれほど深く、広く、執念深くいろいろなことについて関心を持ち、飽くなき関心を持ち続ける。どこまでも行きたいと思いつ、どこまでもやりたいと思う。どういうところにそういうエネルギーを溜め込み、どこから噴出しているのか、よく分からなかったが、最近少しずつ分かるようになった。彼は、下山事件、松川事件、三鷹事件を書く時と、江戸の改革や大奥のことを書く時と、別人のようでありたいところが怖いと結ばれた。

### 研究発表(1)

『松本清張と大岡昇平——歴史文学への志向』



発表者  
関塚 誠

筑波大学大学院  
日本学術振興会  
特別研究員

### 研究発表(2)

『清張初期小説における「距離」の問題——地理・歴史・推理』



発表者  
足田 雅昭

立教大学  
日本学術振興会  
特別研究員

# 松本清張 研究会の軌跡

松本清張は現代小説、歴史・時代小説、推理小説のほか、ノンフィクション、昭和史、古代史等の分野に果敢に挑戦していき、その多岐にわたる活動ぶりに対して「脱領域の作家」とも呼ばれました。しかし、逆にその多方面にわたる活動ぶりが松本清張研究を困難なものにしてしま

た。純文学と大衆文学、フィクションとノンフィクションといった従来からの分類基準が形骸化し、それぞれの本来の意味や在りようが問題にされ、大きくいえば、文学とは何かが問われて

いる今こそ、旧来の文学研究の枠にとられない清新な着想、独自のアプローチ、通時的にも共時的にも幅広い目配り、等々にもとづく新たな松本清張研究の出現が待たれるとして、平成十年十二月、松本清張研究会は発足しました。

## 研究発表会

- 第一回 平成十一年十二月二十七日 立教大学 参加者九〇名  
 講 演『松本清張という人』 藤井康栄(松本清張記念館館長)  
 研究発表『松本清張の出版―歴史小説の方法と論理』 石川巧(山口大学助教)
- 第二回 平成十二年六月十日 立教大学 参加者三五名  
 講 演『松本清張と絵画』 山田有策(東京学芸大学教授)  
 研究発表『危機をめぐる連載小説―菊池寛の「震災」から松本清張の「戦後外交」へ』 前田潤(立教大学大学院後期博士課程)
- 第三回 平成十二年十二月二日 専修大学 参加者四〇名  
 講 演『松本清張と菊池寛』 小笠原賢二(文芸評論家)  
 研究発表『松本清張初期短編への考察』 山口政幸(専修大学助教)
- 第四回 平成十二年六月九日 立教大学 参加者六〇名  
 講 演『松本清張における歴史と文学』 桶谷秀昭(文芸評論家)  
 研究発表『フィクションとリアリティー―「日本の黒い霧」の周辺―』 佐藤泉(青山山学院女子短期大学助教)



天沢 退一郎氏



井上 章一氏



郷原 宏氏



高橋 和夫氏



小笠原 賢二氏



川本 三郎氏



桶谷 秀昭氏



北川 透氏



佐藤 忠男氏

- 第五回 平成十三年十二月一日 松本清張記念館 参加者八〇名  
 講 演『清張ミステリーと女性読者』 藤井淑禎(立教大学教授)  
 研究発表『「黒地の絵」について』 松本常彦(北九州市立大学助教)
- 第六回 平成十四年六月十五日 立教大学 参加者五〇名  
 講 演『「行者神髓」について』 天沢 退一郎(詩人・明治学院大学教授)  
 研究発表『清張文学の関与―クスト性―「D」の複合』 仲正昌樹(金沢大学助教)
- 第七回 平成十四年十二月八日 立命館大学 参加者六〇名  
 講 演『清張の歴史とアカミシヤン』 井上 章一(国際日本文化研究センター教授)  
 研究発表『清張小説における恋愛観―「波の塔」をめぐる』 渋谷香織(駒沢女子大学助教)
- 第八回 平成十五年六月二十八日 立教大学 参加者七〇名  
 講 演『日本推理小説史上における松本清張』 郷原 宏(文芸評論家)  
 研究発表『愛しみの構図―松本清張の「女」を読む』 大井田義彰(東京学芸大学助教)
- 第九回 平成十五年十二月六日 文藝春秋ホール 参加者九〇名  
 講 演『ソロアスター教と現代』 高橋 和夫(放送大学教授)  
 研究発表『法の限界への挑戦―転換点としての「霧の旗」』 大塩竜也(立教大学大学院)
- 第十回 平成十六年六月二十六日 明治大学 参加者一〇〇名  
 講 演『清張ミステリーにおける東京』 川本 三郎(文芸評論家)  
 研究発表『日本近代の欲望と犯罪―砂の器』を中心に』 綾目広治(リトルダウニング女子大学教授)
- 第十一回 平成十六年十二月四日 愛知大学 参加者七〇名  
 講 演『万引き・刺殺パロディというトリック―松本清張「側面観」北川透詩人梅光学院大教授』  
 研究発表『「大衆」はリアリティーを欲している―清張推理小説の淵源』 真銅 正宏(同志社大学教授)
- 第十二回 平成十七年六月二十五日 中近東文化センター 参加者九〇名  
 講 演『松本清張における人生の設計』 佐藤 忠男(評論家)  
 研究発表『清張作品における「考古学」の登場形態』 大津 忠彦(筑紫女学院大学教授)
- 第十三回 平成十七年十二月三日 北九州市立大学 参加者七〇名  
 講 演『記憶の風景―松本清張の小倉時代』 小林 慎也(梅光学院大学教授)  
 研究発表『「採集」する身体へ―清張・小倉そして民俗学』 重信 幸彦(北九州市立大学助教)

※所属は当時のもの

# 東大寺礎石

作家の大きな肖像の前に展示された直径約一メートルの石は、持ち主の迫力に相応しい質感と量感を露わにしている。

石の造形は何かを象るでもなくただその柱を支えるという役目のために作られているが、まるでオブジェのようにも見える。

松本清張は、この東大寺の礎石として使用されていた石を、高井戸の自宅の庭に置いて楽しんだ。

当時の雑誌によると、昭和三十

六年に十五万円で購入したらしい。

(前略)庭に一昨年東大寺の礎石を一個買って据えている。若い頃は九州の古い寺を見て回り、ときどき無理をして奈良に行ったものだが、まさか自分の家で東大寺の礎石を毎日眺められようとは思わなかった。私は別に骨董趣味はないが、若い頃のあこがれが自分の庭先で毎日満たされているとは最高のぜいたくかもしれない。(私のぜいたく「エコノミスト別冊」昭和三十八年十月十日)



おそらく長い年月を地の底で過ごし、巨大建造物の柱を支えた遺物である。現代になって突然、太陽のもとにさらされ、時には「主人が上に乗って写真を撮るなどとは想定外であったに違いない。ましてや主人の没後、記念館のモニュメントとして飾られようとは、礎石も心中、複雑かも知れない。

清張は、世界中に遺されている巨石文化や、九州、関西各地に見られる遺物など、とりわけ考古学において「石」に興味を持った。古代からの姿を留める普遍的な存在に、生涯ロマンを感じていたのだろう。

(学芸員 柳原 暁子)

## 清張原風景 点描

### 旦過橋

「その風呂屋のある市場に近い旦過橋という橋を渡ると、角に古本屋があった。私は狭い間借りでは息が詰りそうなので、この古本屋によく行って立ち読みしたものだ。その店の前には小さな電車が香春口というところまで走っていた。」(半生の記)清張は小学校低学年の時、親子三人で古船場(現魚町四丁目)の亀井風呂の裏手にある六畳間に住居を構えた。旦過橋は、その住居そばの神藏川(神岳川)に架かっている。父・峯太郎は、市場から帰る客を目当てに橋の上で塩鮭の立ち売りをし、予想以上の売上げをあげていた様だ。



旦過橋

この橋は、文化六年に眼鏡橋として架けられたが、明治二十四年の洪水で流失し、以後木橋に架け替えられた。清張が高等小学校を卒業した翌年の大正十四年、

木橋は鉄筋コンクリート橋に様変わりした。現在の橋は、昭和四十一年に交通量増加のために北側に拡幅したものである。旦は「朝」を意味し、橋のそばに所在した寺の僧侶が諸国を修行する禪の修行僧を朝旅立つ時に門前の橋まで見送ったので、旦過橋という名前がついたと言われている。

「昔は紫川に結ぶ神岳川を利用して小さな舟が入り、川岸の市場へ魚や野菜



を揚げていた。その市場が旦過という名で、この旦過市場からまっすぐ北につながる筋が魚町であった。」(「骨壺の風景」)旦過橋の袂で、当時から魚屋が軒を並べて賑わっていた旦過市場の様子が伺える。この地には、戦後の食糧難の時代に食料品販売を開始し、昭和五十四年に日本初の二十四時間営業を始めたスーパーがある。

現在では、夜ともなれば旦過橋には、お酒ではなくおはぎが置いてある屋台が軒を連ね、市民や観光客で賑わっている。

(礎 政幸)



賑わう屋台

特別企画展

# 『天保図録』挿画展

風間完が描く江戸のひとつ

期間：平成18年8月1日（火）～10月31日（火）

場所：松本清張記念館 地下企画展示室



「天保図録」は江戸後期、老中・水野忠邦が改革を行った天保時代を舞台にした、長編歴史小説です。

清張は連載開始にあたって「改革の動向を上流からだけ捉えずに、下級役人の立場からも眺めてみたい。上層部を書くことよりも、そのほうがはるかにリアリティーがあり、現代意識に照応するからである。」と述べています。その言葉のとおり、将軍家慶や大奥の女性たちから江戸の町に暮らす人々まで、さまざまな人物を登場させ、時代そのものを重層的に描いています。

この連載には風間完画伯の挿画が彩りを添えました。多くの原画の一部ではありますが、連載時の雰囲気再現すること

で、改めて「天保図録」の魅力をお伝えします。

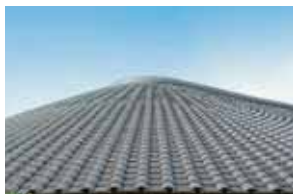


## きよしとハルコの探検！清張記念館

### 屋外 “屋根瓦”の巻

**きよし** すごい夕立だったねー。屋根に穴があきそう。

**ハルコ** そんなはずないじゃない。記念館の設計コンセプトには「いつまでも色あせない清張の世界を収めるにふさわしい建物として、100年後もこの姿で存在させたい」という思いが込められていると聞いたもの。



**きよし** …ものたえだつてば。屋根にも清張スピリッツが注入されているんだね。

**ハルコ** 丈夫なだけじゃないわ。曲線部分の瓦は、設計事務所と施工業者が瓦メーカーと何度も試作を重ねた

特注品なの。他の箇所の瓦ぶきはひと月で完成したのに、この部分だけは2ヶ月以上もかかったんですって。

**きよし** そう言われてみると、この瓦のカーブは複雑な形だなあ。

**ハルコ** この瓦組みの技術はその後、他の建物に応用されたそうよ。記念館がなかったら、その建物は別の姿になっていたかも。

**きよし** 僕も、記念館がなかったら君とこんなに親しくなれなかったかも。

**ハルコ** 完成にはまだまだかかるわよ。



稀少品なので倉庫にストックあり

独特の存在感をたてる屋根瓦は、洋瓦の本場、三州瓦。200年続く老舗の最高級品を贅沢に使用。ご来館の際には美しさと強さを兼ね備えた屋根瓦にもぜひ注目してみてください。

# 友の会 活動報告

## ● 朗読劇「天城越え」(4月14日(金):参加者83名)

劇団前進座による朗読劇「天城越え」を松本清張記念館屋外スペースで開催しました。朗読劇は「西郷札」「或る『小倉日記』伝」に続いて今回が3回目となります。3名の役者による朗読は真に迫っており、また照明や音響が効果的に用いられ大変感動的でした。



## ● 作品の舞台をめぐる旅(6月2日(木)~4日(日):参加者25名)

長野県の清張ゆかりの地や作品の舞台などを訪問しました。最初に訪れた松本市では作品「群疑」に登場する石川数正が築城した松本城のほか、松本市美術館を見学しました。次に上田市では池波正太郎真田太平記館、無言館を見学しました。最後に諏訪市では、「湖畔の人」「面貌」などの作品に描かれている松平忠輝が城主であった高島城を見学しました。その後、清張が取材のために宿泊した元旅館「山の家」(現在は民家)の一部を見学させていただきました。



## 友の会会員募集!!

ただいま友の会では新規会員を募集中です。松本清張記念館友の会では清張ゆかりの地の見学や読書会・講演会等の開催、会報の発行など多彩な事業を展開しています。会費は、8月から翌年7月までの1年間で3,000円となっております。

### ■友の会事業

- ・講演会、シンポジウム等の開催
- ・映画ビデオ等の上映会の開催
- ・読書会、文芸講座等の開催
- ・会報の発行
- ・松本清張ゆかりの地、他都市の文学館見学事業の実施 など

### ■会員特典

- ・常設展の招待券(年間4枚)進呈
- ・企画展(年2回)のご招待
- ・記念館主催事業のご案内・参加
- ・記念館広報誌(館報)・企画展図録進呈
- ・友の会主催事業のご案内、会報の進呈
- ・講演集『清張と私』の進呈(加入年度のみ)
- ・友の会オリジナルグッズの進呈(加入年度のみ)
- ・喫茶「石の館」(記念館内)の飲食料金1割引

友の会入会のお申し込みは… TEL. 093-582-2761 松本清張記念館友の会事務局まで

## 松本清張記念館友の会 過去5年の歩み

- 平成12年11月22日、「松本清張記念館友の会」設立。

- 【文学散歩】…清張ゆかりの地や文学碑を訪問  
北九州市内(H13.4)、国東・安心院(H13.11)、日田(H15.11)、佐賀(H16.4)、太宰府(H17.2)、関東(H17.5)、下関(H17.11)

- 【他都市文学館見学会】…各地区の文学館を訪問  
四国地区(H13.6)、中国地区(H14.4)、関東地区(H15.2)、北海道地区(H15.8)、鹿児島(H16.10)、長野(H18.6)



- 【清張サロン】…レクチャー及び参加者の意見交換の場  
「張込み」「鬼畜」「一年半待て」(H14.9)、「或る『小倉日記』伝」(H14.12)、「ゼロの焦点」(H15.4)、「霧の旗」(H15.10)、「天城越え」(H16.2)、「砂の器」(H16.5)、「赤いくじ」(H16.9)、「十万分の一の偶然」(H17.3)、「黒地の絵」(H17.9)

- 【朗読劇】  
「西郷札」(H15.9)、「或る『小倉日記』伝」(H16.11)、「天城越え」(H18.4)

- 【読書会】  
「張込み」「顔」「声」(H13.5)、「菊枕」「天城越え」(H14.3)

- 【講演会】  
新藤兼人氏(H13.1)、半藤一利氏(H14.8)、西村雄一郎(H17.12)

- 【文芸講座(今村会長)】  
「表象詩人」(H17.5)、「骨壺の風景」(H17.6)、「鷗外の婢」(H17.6)、「時間の習俗」(H17.6)



- 【その他】  
清張没後十年記念ドラマ紀行「ゼロの焦点」(H14.9)及び「砂の器」(H14.11)、生誕祭など

- 【設立5周年記念誌発行】  
・講演集『清張私』

- 【友の会限定オリジナルグッズ】  
・オリジナルファイル(全6色)  
・黒革のしおり <5周年記念グッズ>  
・黒革のメモ帳 <5周年記念グッズ>



応募方法・締切等は、松本清張記念館ホームページをご覧ください。

<http://www.kid.ne.jp/seicho>



# 清張 書感想文 コンクール

平成18年度  
中学生・高校生



松本清張がこの世を去ってから四年が経とうとしています。もう二度と新作を待つことができないことを嘆く読者がいる一方で、初めて清張作品に出会う若い読者もいます。中高生読書感想文コンクールは、こういった若い読者が清張作品と出会うきっかけとなり、読書を通じて考えたことや感じたことを表現することにより豊かな文章力と表現力を身につけてもらえたら、という思いから始められました。平成十四年度から数えて今年度で第五回目を迎えます。

作家・松本清張が登場した頃、「点と線」や「眼の壁」は新鮮さをもって受け止められ、多くの読者に歓迎されました。へ社会派へも動機のある視へも今では推理小説に「くありふれた要素ですが、当時は清張が開拓した分野でした。またその時代においては、巨大権力への反逆ともいえる内容の作品を次々と発表し、社会にも大きな影響を与えました。正直なところ、現代の若い読者にとって、清張作品はどのように読まれるだろうと、初めは不安がありました。しかし、応募作はその不安を可能性への確信に変えてくれました。作品の丁寧な鑑賞、みずみずしい感性で切り取った印象、それらを自ら考え表現する力は、実に素晴らしいものでした。

私たちはこのコンクールを、よくある普通の読書感想文コンクールにはしたくないと思っています。そのことは、受賞者の多彩な作文を読んでいたただければよくわかってもらえることでしょう。

これからも、この事業を大切に育てていきたいと考えています。今年度もますますのご応募を楽しみにしております！

## 課題図書

- 「眼の壁」
- 「西郷札」
- 「陸行水行」

今回は、最近お寄せいただいたアンケートの中から、記念館を訪れてみての感想を掲載しました。

## みんなの広場

- ・清張全集を何度も読みました。深い洞察は、あのすごい量の本と取材メモにあると感じさせられました。  
(60代・広島・男)
- ・とても面白い展示でした。清張作品はあまり読んだ事はありませんでしたが、さっそく読んでみたいです。ありがとうございました。  
(30代・佐賀・女)
- ・感動しました。文学の道をこころざすものとして尊敬したいです。  
(10代・佐賀・女)
- ・読書が唯一の趣味ですが、本を購入して読むだけで作家がどのようにして一つの小説を書かれたのか全く知らずにいたので、その様子を拝見して大変参考になりました。  
(70代・奈良・男)
- ・大好きな松本清張の記念館に来ることができて、良かったです。また来ると思います。展示も(清張氏の書斎など)リアルで良かったです。  
(30代・不明・不明)
- ・松本清張先生の偉大さをあらためて感じた。もっともっと作品を読んで(また)行くつもりだ。  
(50代・香川・女)

このコーナーでは、アンケートなどでお寄せいただいた意見等をご紹介します。清張や作品に対する思い、エピソードなど何でも結構です。皆さんの「声」を是非、記念館までお寄せください。  
※アンケートは館内にも置いてあります。

## 松本清張記念館

## ホームページリニューアル

松本清張記念館のホームページをリニューアルしました。是非、一度アクセスしてみてください。



## コンテンツ

- 全力で駆け抜けた巨人 松本清張
- 館内のご案内  
展示室1「松本清張の世界」  
展示室2「思索と創作の城」  
地階 企画展示室など
- 様々な切り口から清張を知る企画展
- コンクール・研究など 事業のご案内
- ファンの方々に 友の会のご案内
- 刊行物一覧
- 来館のご案内
- リンク集

## 松本清張と交友をもたれた方へ

松本清張と取材や会食等で一緒にされたことのある方は記念館までお知らせください。些細なことでも結構ですので、エピソード等の情報をお待ちしています。



イラスト：山藤 章二

編集・発行

## 松本清張記念館

〒803-0813  
北九州市小倉北区城内2番3号  
TEL 093 (582) 2761  
FAX 093 (562) 2303  
<http://www.kid.ne.jp/seicho>  
制作 (株)エディックス

- 開館時間 午前9:30～午後6:00 (入館は午後5:30まで)
- 休館日 年末(12月29日～12月31日)
- 観覧料 一般/500円(400円) 中・高生/300円(240円)  
小学生/200円(160円) ( )は30人以上の団体
- アクセス JR：小倉駅から徒歩15分 西小倉駅から徒歩5分  
らば倉駅かバスをご利用いただくと便利です(小倉城・松本清張記念館前下車)  
車：北九州市都市高速、大手町ランプより5分

## 松本清張記念館

第8回

松本清張研究奨励事業  
入選企画決定

平成10年度に創設した「松本清張研究奨励事業」も第8回を迎えました。

今回は、松本清張の幅広い活動に対して、文学研究、翻訳、調査等多彩な研究企画案の応募が、国内外から11点ありました。

選考委員会による厳正なる審査の結果、次のとおり入選者が決まりました。

企画名 『隠花の飾り』英訳

入選者 栗田 香子(米国・ポモナ大学準教授)

ジェイムズ・リップソン(米国・(有)メタフォリア社長)

奨励金 50万円

第9回

## 松本清張研究奨励事業募集

## 募集要項

- 対象 ①松本清張の作品や人物を研究する活動  
②松本清張の精神を継承する創造的かつ斬新な活動(調査、研究等)  
※上記①②の活動で、これから行おうとするもの。ジャンル、年齢・性別・国籍は問いません。ただし、未発表に限ります。個人または団体も可。
- 内容 入選者(団体)に200万円を上限とする研究奨励金を支給します。
- 応募方法 今後取り組みたい調査・研究テーマ等の内容が具体的にわかる企画書、予算書、参考資料(様式は自由、ただし日本語)を、平成19年3月31日までに応募してください。

※詳しくは記念館までお問い合わせください。

## ●編集後記●

本格的な海の季節になりました。こんな時、浜辺で海風にあたりながら、清張作品に触れるのも良いですね。

今年の8月4日で記念館は8周年を迎えます。

今後とも末永く館報をご愛読いただきますようお願いいたします。

(碓 政幸)

